

第 5 回夢洲万博関連事業等推進連絡会議
及び第 6 回同幹事会（議事要旨）

令和 6 年 6 月 24 日開催

議事

- （１）「第 4 回連絡会議及び第 5 回同幹事会」の議事要旨の確認
上記について確認をした。
- （２）大阪・関西万博事業の取り組みについて
上記について確認をした。
- （３）万博工事期間中の交通影響検討
上記について確認をした。
- （４）万博会場周辺の交通課題と対応案
上記について確認をした。
- （５）万博開催期間中の交通影響検討
上記について確認をした。
- （６）夢洲における物流交通対策
上記について確認をした。
- （７）働きかけ TDM に向けた取り組み
上記について確認をした。
- （８）I R 事業の取り組みについて
上記について確認をした。
- （９）次回（最終回）の連絡会議について
上記について確認をした。

主な意見

万博工事期間中は、一部場所で交通容量の上限に近いような箇所も見られるので注意が必要と思う。パビリオン建設が当初予定よりも遅れ、想定よりも車両数が増加し、短期間に集中するようなことも今後ありうるので、引き続き状況を注視しながら、必要に応じてしっかり対応を考えて欲しい。

開催期間中は、コントロールの効きにくい一般車両等も増えてくると思われるので、コントロールできる車両については、できるだけ今のうちから最大限交通量を下げる取組や努力を、継続してやっていく必要がある。TDM は非常に重要な取組であるが、目標値や効果等の数値をできるだけ示すことによって、企業や市民が具体的にどういう協力をすれば良いか分かりやすくしていくことが必要と思う。

ハードについては、基本的には順調に進んでいるという認識であるが、今後、工事期間あるいは開催期間中、いろんな事態が生じることが当然考えられるので、そういった場合も柔軟に速やかに対応できるよう、今後とも心がけていく。

工事期間中の交通対策について、ハード面においては、できることをやり切ったと認識している。

今後、開幕が迫ってくるので、工事ファーストで物事を考えていかなければいけない。ソフト面において、問題があったときに港湾の物流対策でコンテナ車両を道路上に滞留させないというのがポイントかと思う。こういったソフト面の取組強化を是非お願いしたい。

開催期間中、数字上は、混雑時間帯における容量の枠内に交通量を収めたということであるが、余裕が全くない状況である。不測な状況が起これば、たちどころに交通が滞留する。次回に向けて、「物流、IR 工事、一般交通などに対して、市として必要となる追加的な対策を検討・実施する」となっているが、具体的に何をするのか共に考えながら、余裕のない万博期間中の交通対策について、引き続き検討していきたい。

多くの作業が同時多発的に起き、今まで以上におそらく現場の混乱もあるだろうし、大変なこともあるかと思う。是非安全第一で進めていただくようお願いする。

交通の関係については、余裕があるわけではないということでもあるので、工事期間中、それから開催期間中も（来場者輸送）情報センターを設置されるので実態もきちんと把握しながら臨機に、対策、対応していくという体制をきちんと行っていただく必要があると思う。

これからどんどんピークを迎えて、工事業者、躯体工事から設備や展示関係、いろんな業者が入れ替わり立ち替わり入ってくるという状況になろうかと思う。開幕直前になると工事業者だけでなく、いろんなスタッフも入ってくるので、特に現場の安全対策には万全を期していただきたい。

交通量については、工事期間中は7割から9割、開催中はほぼ100%という形で、何とかギリギリ発生集中交通量をさばけそうだという話であったが、何かあるか分からないということで、工事の輻輳等による渋滞等の課題が生じた場合には、早めに現場レベルでの情報を共有し、対応に当たっていただくようお願いする。

これから交通事故や工事事故を起こさないような取組をさらに強化していただきたいと思います。

万博開催期間中について、データのとおり道路交通容量に余裕がないので、何かあったときにどうするかということが課題だと思っている。

できることは限られているかもしれないが、不測の事態にどう対処するのかについては、皆様と検討していきたい。

協会発注の主要な工事は、かなり進んできた。特にシンボルである大屋根、リングは、約 97%の着工率となった。9 月には全体が繋がる。また、IR 用地の提供など、本当に感謝申し上げる。引き続き、景観の調整などよろしくお願いする。

開催期間中の実際の交通量はどうしても変動があるので、その影響を最小限とするよう、臨機の対応ができるよう、協会の来場者輸送情報センターと連携して、具体的にどう対処していくかというご意見をいただいていたようにしっかり検討、準備していく必要があると考える。

工事期間中の対応については、これから、いよいよパビリオンの各種施設の建設が後ろに倒れて山場を迎えることになる。いろいろ支障が出てくるところも決して無いというわけではないと思うので、常に現場の状況を見て、問題の発生が懸念される場合には直ちに手を打って、あるいは先手先手で対策を打っていただくことを願います。

万博開催期間中も、不測の事態が起こったときにどういう手を打っていくのかという様々な案を事前に準備をしておいていただければと思うので、対応策について引き続き議論いただき、関係者間でも協議、調整を行っていただいて、次回のこの会議でご提示いただけると幸いである。

IR 関連工事については、騒音、振動あるいは景観などといったようなところの部分について、今議論中というところもあるようなので、引き続き丁寧な調整をお願いする。

以上